

# 第3部 基本計画



# 第1章 便利で快適なまちづくり (都市基盤)

## 基本方針

人と自然が共生した、  
快適な生活環境が実感できる、  
住んでみたい、  
住み続けたいまちの実現に努めます。

## 施策体系

### ● 便利で快適なまちづくり ●

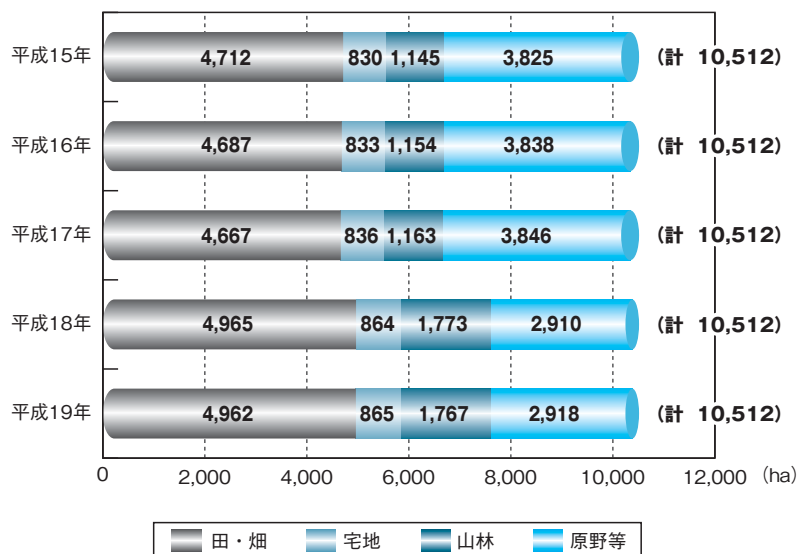
- 1 計画的な土地利用の推進
- 2 利便性の高い地域交通体系の整備
- 3 良好な住宅環境の整備
- 4 心やすらぐ公園・緑地の整備
- 5 高度情報通信基盤の活用

# 1 計画的な土地利用の推進

## 現状と課題

- 本市では農業振興地域、特定農山村地域、過疎地域など、特定の地域指定が設定されています。
- 農業振興地域整備計画が旧3町とも策定されていますが、策定年度が古いいため計画と地域の実情が合わなくなっており、年2回一部変更を行っています。
- 農地転用は、農業振興の観点からは優良農地の確保に努める必要がありますが、近年の核家族化等の進展により、農地の宅地化が進んでいます。
- 本市は、山川地区、高田地区の一部を除き都市計画区域に指定されており、高田地区には市街化区域と市街化調整区域が設定されています。
- 用途地域については、住居専用地域を中心に近隣商業地域、商業地域や準工業地域などが設定されています。
- 今後も一般国道443号バイパスやみやま柳川インターチェンジ、有明海沿岸道路などの道路整備が進められます。これらの周辺地域については、土地利用の変化に対応した均衡ある発展を目指したまちづくりや、賑わいのあるまちとなるような適正な土地利用が必要となっています。
- 併せて、本市の総合計画、都市計画区域等との整合性を図りつつ、みやま市全域の農業振興地域整備計画の見直しを行う必要があります。
- 計画的な土地利用を進めるための基礎調査として、旧町時代から国土調査（地籍調査）を進めており、平成19年度末現在で、市全体で約90%の進捗率となっています。

■ 種目別面積の推移 ■

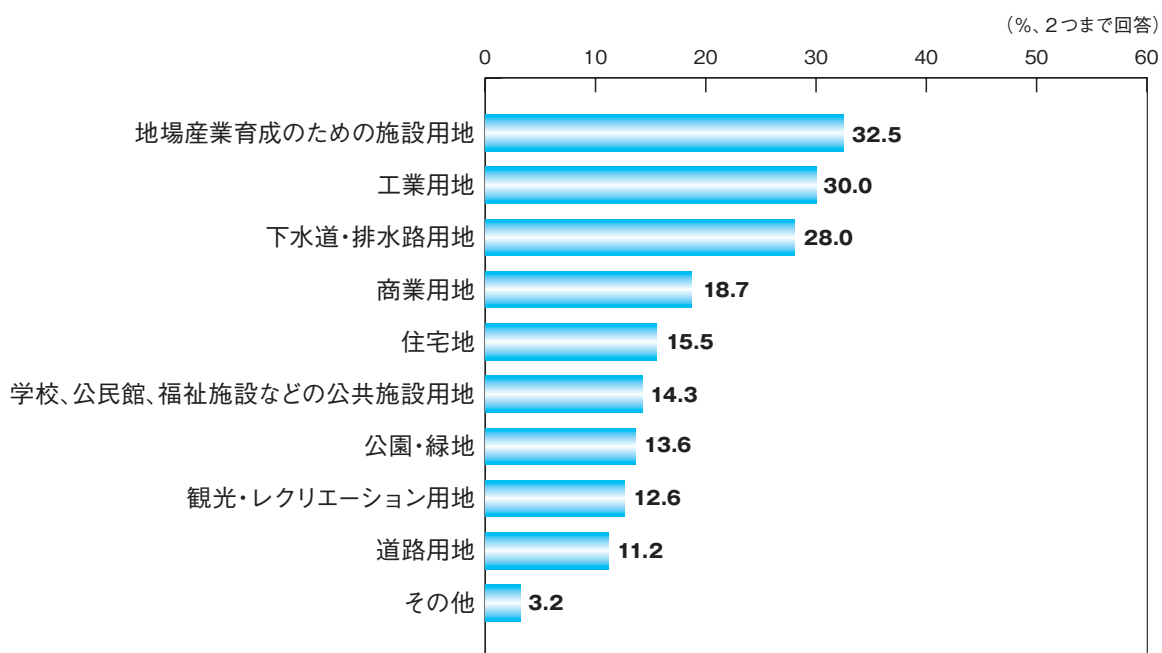


■ 都市計画用途地域用途別面積（平成19年） ■ (単位：ha)

区分	住居専用系	住居系	商業系	工業系	合計
瀬高	66	111	45	40	262
高田	50	86	10	35	181
市全体	116	197	55	75	443

資料：都市計画課

■ 優先的に整備していく用地（住民アンケート） ■



矢部川大橋

## 主要施策

### 1-1 計画の策定と見直し

土地利用を適正かつ合理的に誘導するために、本市の地勢的、地理的特性を踏まえ、都市機能の向上と農業的土地利用との均衡を図り、無秩序な土地の開発を抑制して生活環境を保全しつつ地域の活力の維持・向上を目指し、土地利用に関する計画の策定、見直しを進めます。

- 都市計画マスタープランの策定
- 農業振興地域整備計画の見直し
- 適正な農地転用の推進

### 1-2 合理的かつ効率的な土地利用の推進

大牟田都市計画高田区域と瀬高都市計画区域の二つの区域を一つにした本市としての都市計画区域の設定を促進します。

- 新市としての都市計画区域の設定

### 1-3 国土調査事業の推進

総合的、計画的な土地利用の基礎的な資料として、地籍調査を進めていきます。



みやま柳川インターチェンジ

## 2 利便性の高い地域交通体系の整備

### 現状と課題

#### 【幹線道路】

- 本市の道路網は、南北に熊本市から佐賀市に至る一般国道208号、高田町から久留米市を結ぶ一般国道209号があります。東西には、大川市から熊本県氷川町を結ぶ一般国道443号が本市の中央を横断しています。また、一般国道443号はバイパス道路の整備が進んでいます。
- 東部には九州縦貫自動車道が縦断し、一般国道443号バイパス、みやま柳川インターチェンジの整備が進められています。また、西部には地域高規格道路として有明海沿岸道路の整備が進められており、本市には2つのインターチェンジが設置されています。さらに、これらの国道と地域を連携するように各県道が補完しています。
- このうち、有明海沿岸道路の高田ICの<sup>\*</sup>アクセスとして、都市計画道路江浦・原線が認可済みであり、平成18年度より一般国道209号への取付けが県事業で実施中です。
- 本市の恵まれた道路網と高速交通道路網を連携することで、福岡都市圏と熊本都市圏の中間に位置した南筑後の交通の要衝として発展する可能性を持っています。
- 今後は、これらの広域的な道路網を生かし、地域の利便性の向上や地域内に人、物、情報が活発に流れ込むようにすることが必要です。
- 橋梁については、老朽化の著しいものもあるため、架け替えなどの整備改善が望まれる一部国道・県道もみられます。

#### 【生活道路】

- 本市の生活道路は、国道は改良や舗装が進んでいますが、歩道が十分確保されていない道路も一部あり、<sup>\*</sup>バリアフリーを考慮した整備が必要です。
- 県道も舗装整備は進んでいますが、道幅が狭く改良が必要な道路があります。また、市道は集落内の道路改良や舗装整備が十分とはいえません。身近な生活道路である県道や市道の利便性の向上と安全性の確保が望まれます。

#### 【公共交通】

- 本市を走る鉄道は、一般国道209号と並行して九州南北を結ぶJR鹿児島本線と、一般国道208号と並行して福岡市と大牟田市を結ぶ西鉄天神大牟田線があります。
- JR鹿児島本線には特急が停車する瀬高駅をはじめ、南瀬高駅、渡瀬駅があります。また、西鉄天神大牟田線には江の浦駅と開駅があります。
- 本市の中央を縦断する九州新幹線の整備が進められており、本市近くに筑後船小屋駅や新大

\*アクセス：もともとは接近という意味。施設や目的地などへ到着する方法や手段の意味で用いられることが多く、交通アクセスなどと使われる

\*バリアフリー：「障壁のない」の意。建物や道路などの設計で、段差や仕切りをなくすなど、高齢者や障がい者に配慮をすること

牟田駅が設置されます。

- 現状では駅へのアクセスや駅周辺の整備など機能が十分でないため、近隣の市に比べ駅の利用者数は少ない状況です。駅は地域の玄関口であり、便利で魅力ある玄関づくりが必要です。
- 路線バスは、JR瀬高駅を起終点として一般国道443号を走る2つの路線で運行されていますが、自家用車の普及などにより利用者が減少し、赤字、路線の廃止など厳しい状況が続いています。
- 九州縦貫自動車道には福岡空港と荒尾・大牟田や熊本交通センターを結ぶ高速バスが運行されおり、本市内の瀬高停留所、山川停留所から乗降できます。

市道整備状況

(単位：km)

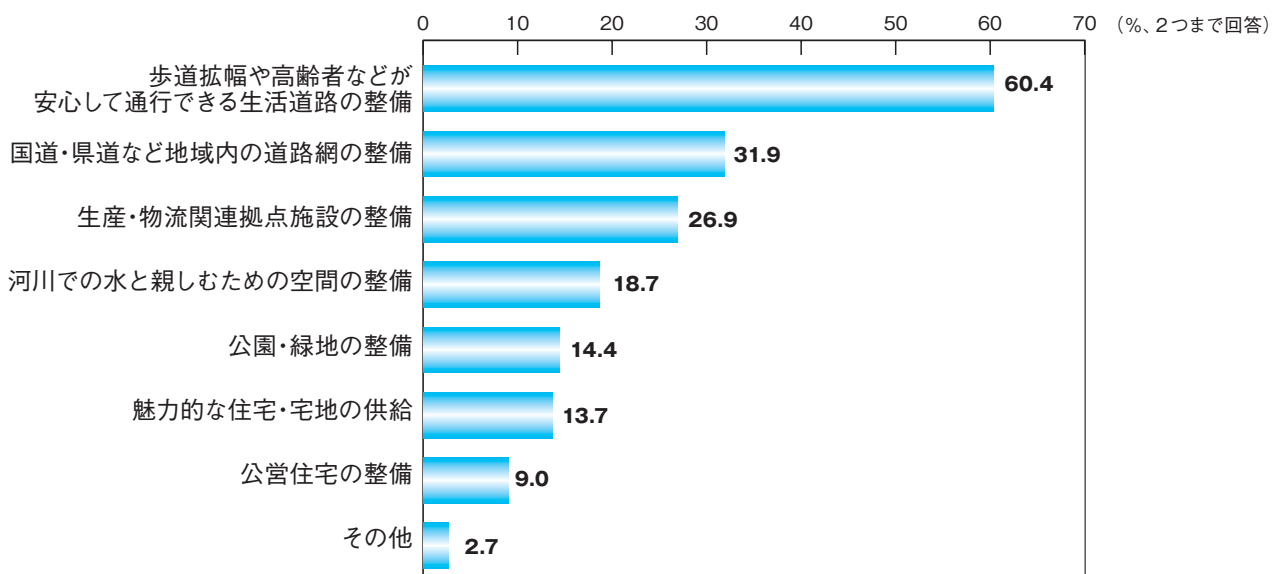
	実延長	種別			改良	
		道路延長	橋梁		改良済み延長	未改良延長
			個数	延長		
平成15年	983,439	977,131	1,041	6,308	519,460	463,979
平成16年	986,474	980,172	1,039	6,302	522,139	464,335
平成17年	986,674	980,339	1,038	6,335	528,789	457,884
平成18年	988,028	981,645	1,040	6,383	532,284	455,743
平成19年	988,674	982,291	1,040	6,383	533,973	454,701

	路面別			歩道延長	道路面積(km <sup>2</sup> )	路線数(本)
	砂利道	舗装道	舗装率(%)			
平成15年	332,530	650,909	66	19,229	4,921	3,147
平成16年	333,896	652,578	66	19,229	4,941	3,147
平成17年	322,069	664,604	67	20,845	4,961	3,146
平成18年	315,692	672,336	68	21,020	4,983	3,160
平成19年	315,757	672,917	68	21,020	4,990	3,168

資料：土木課

交通環境、住環境等で今後力を入れるべきこと (住民アンケート)





## 主要施策

### 2-1 計画的な広域道路網の整備

一般国道443号バイパスをはじめとする主要国道、県道と九州縦貫自動車道、有明海沿岸道路とのつながりをスムーズにする幹線道路の整備を推進し、地域の利便性の向上や地域の一体化に努めます。

旧町間を連絡する域内幹線道路を整備するとともに、人と物の流れを活性化するため、本市と周辺市町とを連絡する地域連携道路の整備を推進し、道路ネットワークの形成を図ります。

- 一般国道443号バイパスの早期整備促進
- 九州新幹線新大牟田駅や筑後船小屋駅と連絡する道路の整備促進
- 必要性に応じた都市計画道路の計画的な整備
- 県道の未改良区間の早期整備促進
- 老朽化が著しい橋梁の架け替え促進

### 2-2 安全で人に優しい生活道路の整備

高齢者、子ども、障がい者などに配慮した歩道等のバリアフリー化など人にやさしい道づくりを推進します。

- 優先順位に基づく道路の舗装・整備
- 計画的な道路整備と歩道等安全対策の促進

### 2-3 公共交通機関の利便性確保

JR、西鉄各駅については、まちの玄関口となることから景観や駐車場・駐輪場の整備を進め、人、物、情報の流れを一層活発にします。

また、高齢化社会に対応し、日常生活の利便性に配慮した公共交通機関の充実を目指します。

- 駅周辺の整備による鉄道利用の増加促進と賑わいの創出
- 九州新幹線全線開業に伴う在来線の利便性の確保

### 3 良好な住宅環境の整備

#### 現状と課題

- 都市部への人口の流出や少子化により、本市の人口は減少しています。人口減に歯止めをかけるには地域に魅力をつけ、住んでみたいと思えるまちにすることが必要です。
- 本市は、近隣都市へのアクセスに恵まれ、また、豊かな自然が豊富にあり、これらを生かした居住環境の整備などが必要となっています。
- 本市には、6団地、358戸の市営住宅があります。このほかに県営住宅が2団地、124戸設置されています。
- 市営住宅は低額な家賃で住宅を提供する役割を担ってきましたが、今後、建設から35年を経過する住宅もあり、老朽化への対応が必要となっています。

■ 市営住宅等一覧 ■

市営住宅		公的住宅	
団地名	戸数	団地名	戸数
市営住宅下小川団地	84	県営下小川団地	70
市営住宅東町団地	54	県営渡瀬団地	54
市営住宅堀池園団地	96	雇用促進住宅 瀬高宿舍	160
市営住宅岩津団地	72	雇用促進住宅 山川宿舍	60
市営住宅下楠田団地	40	計	344
市営住宅飯江団地	12		
計	358	総計	702

資料：都市計画課

#### 主要施策

#### 3-1 住宅・宅地の計画的な供給促進と居住環境の整備

適正な土地利用の誘導と民間活力による住宅整備を促進し、居住環境の整備を進めます。

- 都市計画法、建築基準法の適正な運用による快適な定住環境の整備
- 多様な選択肢のある民間住宅開発の誘導

#### 3-2 市営住宅の整備促進

市営住宅については「市営住宅ストック総合活用計画」に基づき、質の高い住宅を供給するため計画的な建替えを行います。

- 市営住宅ストック総合活用計画の策定
- 老朽化住宅の計画的な建替え促進
- 高齢者など住む人にやさしい住環境の整備

## 4 心やすらぐ公園・緑地の整備

### 現状と課題

- 本市には都市公園である高田濃施山公園や自然公園の清水公園、女山史跡森林公園をはじめ、瀬高中央公園夢広場やお牧山公園などが設置されており、継続した維持・管理が行われています。
- 矢部川周辺には、筑後市にまたがる県営筑後広域公園の整備も進んでいます。
- 公園や緑地は身近な自然とふれあう場や、子どもの遊び場といった交流の場としてだけでなく、災害時の避難場所としての役割もあり、身近な公園や広場の整備が望まれています。
- 公園・緑地の維持管理については、瀬高地区内の11団体と協定し、道路や公園の清掃活動が行われています。今後も公園・緑地を大切にする住民との協働による維持管理体制づくりが必要です。

### 主要施策

#### 4-1 公園・緑地の整備・保全

子どもから高齢者まで地域の人々に安らぎを与え、地域住民の交流の場となる身近な公園・緑地の整備に努めます。

また、貴重な自然環境である古木や大木、樹木、花などを保全し、緑豊かな環境づくりを進めるとともに、公共施設の緑化に努め、住民と協働して市域全体の緑化活動を推進します。

- 「緑の基本計画」の策定に関する検討
- 公園や緑地、水辺空間の整備
- 避難所の機能や管理上の防犯対策への取り組み
- 緑地保全と植樹・緑化事業の推進

#### 4-2 住民との協働による維持管理体制づくりの推進

住民との協働のもと、公園や緑地の適正な維持管理を行う管理体制づくりを進めます。

- 関係団体との協定による清掃活動に対する継続支援
- 地区住民やボランティア団体による管理体制づくりの推進

## 5 高度情報通信基盤の活用

### 現状と課題

- 近年の<sup>\*</sup>デジタル技術やネットワーク技術の進展はめざましく、今後、情報通信は住民の日常生活により一層密接に関係していくことが予想されます。
- 学校における情報教育の実施のほか、電子自治体の推進など高度情報化時代に対応した住民サービスの充実が必要です。
- 一方、個人情報保護法のもと個人情報保護など権利・利益に対する配慮とともに、コンピュータシステムへの<sup>\*</sup>ウィルス侵入など情報<sup>\*</sup>セキュリティの確保が問われています。

### 主要施策

#### 5-1 情報・通信設備の充実

ホームページでの情報の受発信機能の充実を図るとともに、生涯学習や健康づくり、さらには電子自治体としての推進を図るため、防災・防犯等住民サービスにおけるインターネットの活用を推進するなど高速通信網を活用した大容量データの送受信を可能にする設備等の整備を推進します。

- ホームページによる各種行政情報等の住民及び全国への発信
- インターネットを活用した電子申請の拡充による住民の利便性の向上推進
- 庁内での各種情報管理システムの構築と活用
- 高速通信網整備の電気事業者等への要望推進

#### 5-2 情報教育等による能力等の向上

次代を担う子どもたちの情報教育を推進していくため、ネットワーク環境の整備や教員の<sup>\*</sup>ICT指導能力の向上などを推進していきます。

#### 5-3 情報セキュリティの向上

個人情報を保護するために、行政内部の情報管理の徹底に努めるとともに、<sup>\*</sup>ハッカー等システムへの外部からの進入を防ぐためのセキュリティシステムの向上を推進します。

#### 5-4 産業振興における情報・通信技術の活用

インターネットを通じた「みやまブランド」の情報発信や観光客や交流人口誘致のためのPR用ホームページの増設など高度情報・通信技術を活用した産業振興に努めます。

\*デジタル：行政が持っている台帳や資料を、紙からコンピュータ用の電子情報に変えること

\*ウィルス：他人のコンピュータに勝手に侵入してソフト等を破壊するプログラムのこと

\*セキュリティ：犯罪等に対する安全対策

\*ICT：情報とコミュニケーションに関する技術

\*ハッカー：不法に他のコンピュータシステムに侵入してデータを改変したり、無断でコピーしたりする人